

# 第1回 県立高等学校改革懇談会 『船引・小野』

日時：令和4年6月6日（月） 14:00～15:30

場所：小野高等学校 視聴覚室

## 福島県教育委員会

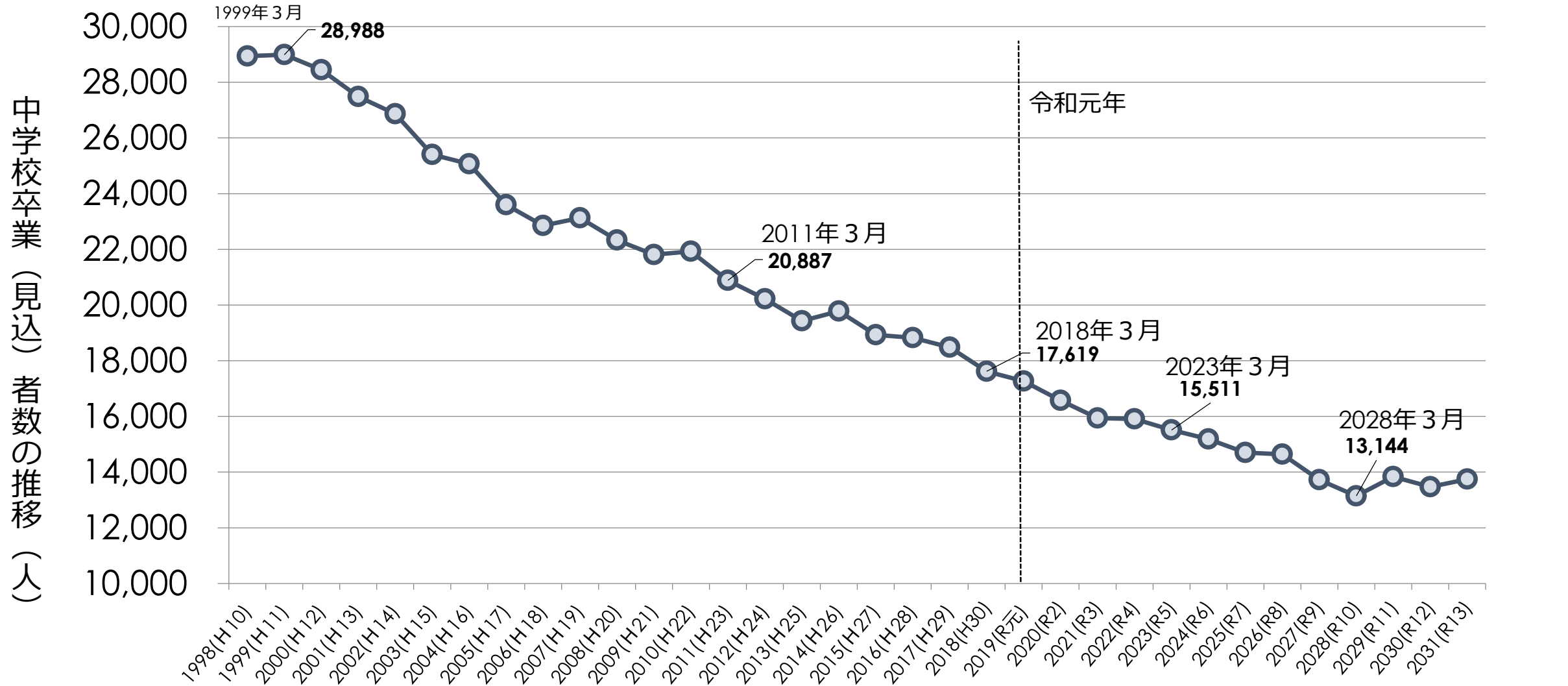
# 本日の内容

1	県立高等学校改革基本計画及び後期実施計画策定の経緯
2	田村市と小野町の中学校卒業見込者数の推移と船引高校・小野高校の入学状況
3	今後の再編整備

1

# 県立高等学校改革基本計画及び 後期実施計画策定の経緯

# 少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

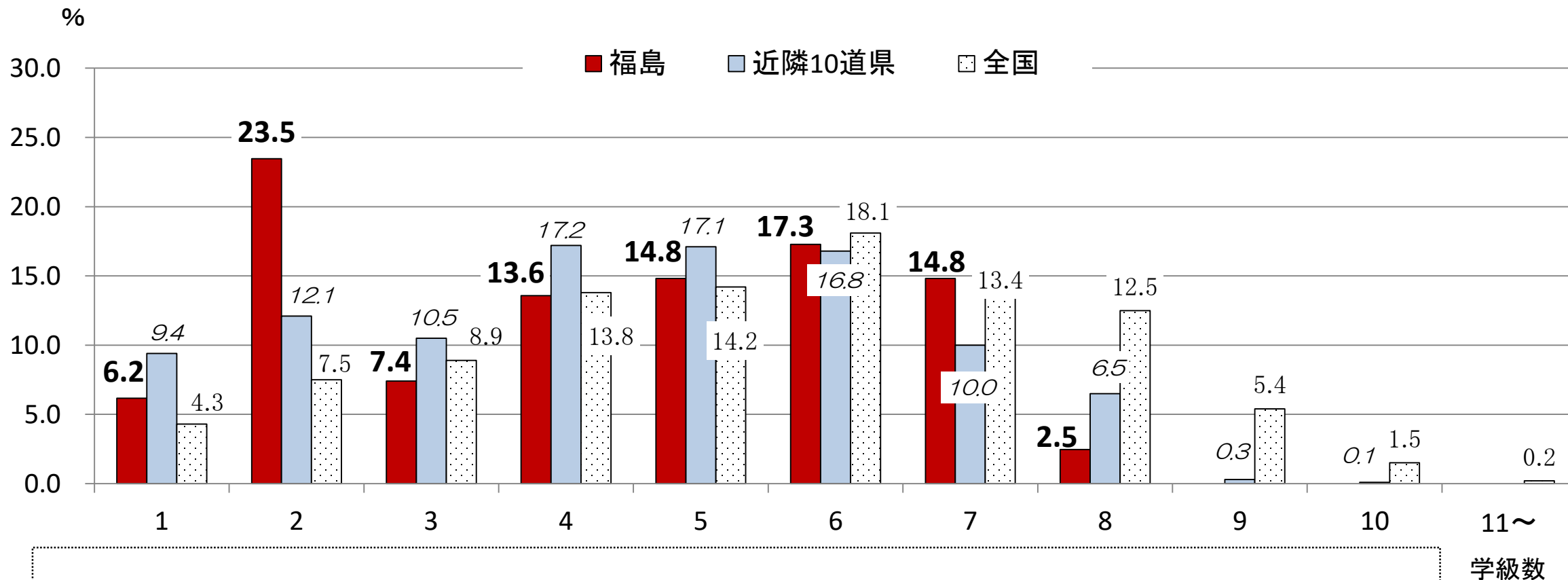


出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。  
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。  
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

（年3月卒業）

# 県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。  
分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

# 本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

## 本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行**（中学校卒業予定者が10年間で約5,300名減少）
- 過疎化・高齡化（地域コミュニティの維持が課題）
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化（主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入）
- **高等学校の小規模化**（3学級規模以下の高校の増加）
- 生徒の学習ニーズの多様化（学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化）
- 東日本大震災と原子力災害からの復興・再生  
（本県の復興に携わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進）

高等学校改革が必要

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度) 答申  
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 平成30年 5月  
(令和元年度～令和10年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (令和元年度～令和5年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (令和6年度～令和10年度) 5年間

# 県立高等学校改革の基本方針

## 基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

## 【4つの基本方針】

**基本方針 1** 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む  
高等学校教育の推進

**基本方針 2** 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

**基本方針 3** 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

**基本方針 4** 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の  
向上



## 再編整備・魅力化の基本的な考え方①

### ○ 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模

1学年4～6学級

1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進

### ○ 望ましい学校規模への再編整備の推進

同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進  
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

## 再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

### 6つの学校群

進学指導拠点校

進学指導重点校

キャリア指導推進校

地域協働推進校

職業教育推進校

定時制・通信制高校

# 前期実施計画の進捗

## 再編整備等

学校名	実施年度	統合校名/再編等の方向性 (学科・学級数)
安積・御館校	R2	募集停止
修明・鮫川校	R2	
川俣	R2	1学級本校化
猪苗代	R2	
只見	R2	
喜多方	R3	喜多方 普通・5
喜多方東		
小名浜	R3	小名浜海星 普通・1 商業・1 水産・3
いわき海星		

学校名	実施年度	統合校名/再編等の方向性 (学科・学級数)
須賀川	R4	須賀川創英館 普通・6
長沼		
大沼	R4	会津西陵 普通・4
坂下		
湯本	R4	いわき湯本 普通・6
遠野		
相馬東	R4	相馬総合 総合・5
新地		
保原(定時制)	R4	ふくしま新世 普通・1
福島中央		

学校名	実施年度	統合校名/再編等の方向性 (学科・学級数)
梁川	R5	伊達 普通・6
保原		
二本松工業	R5	二本松実業 工業・3、家庭・1
安達東		
白河実業	R5	白河実業 工業・5、商業・1
埴工業		
修明	R5	農業科の集約 文理・1、農業・3、 商業・1
耶麻農業	R5	会津農林 農業・4
会津農林		
田島	R5	南会津 総合・3
南会津		

## 特色化・魅力化の取組状況

- 単位制を5校に導入
- 教育プログラムとしてのコース制を18校に導入
- コミュニティ・スクールを6校に導入
- 地域コーディネーターを3校に配置
- 統合校と1学年1学級規模の本校に優先的にICT機器を配置

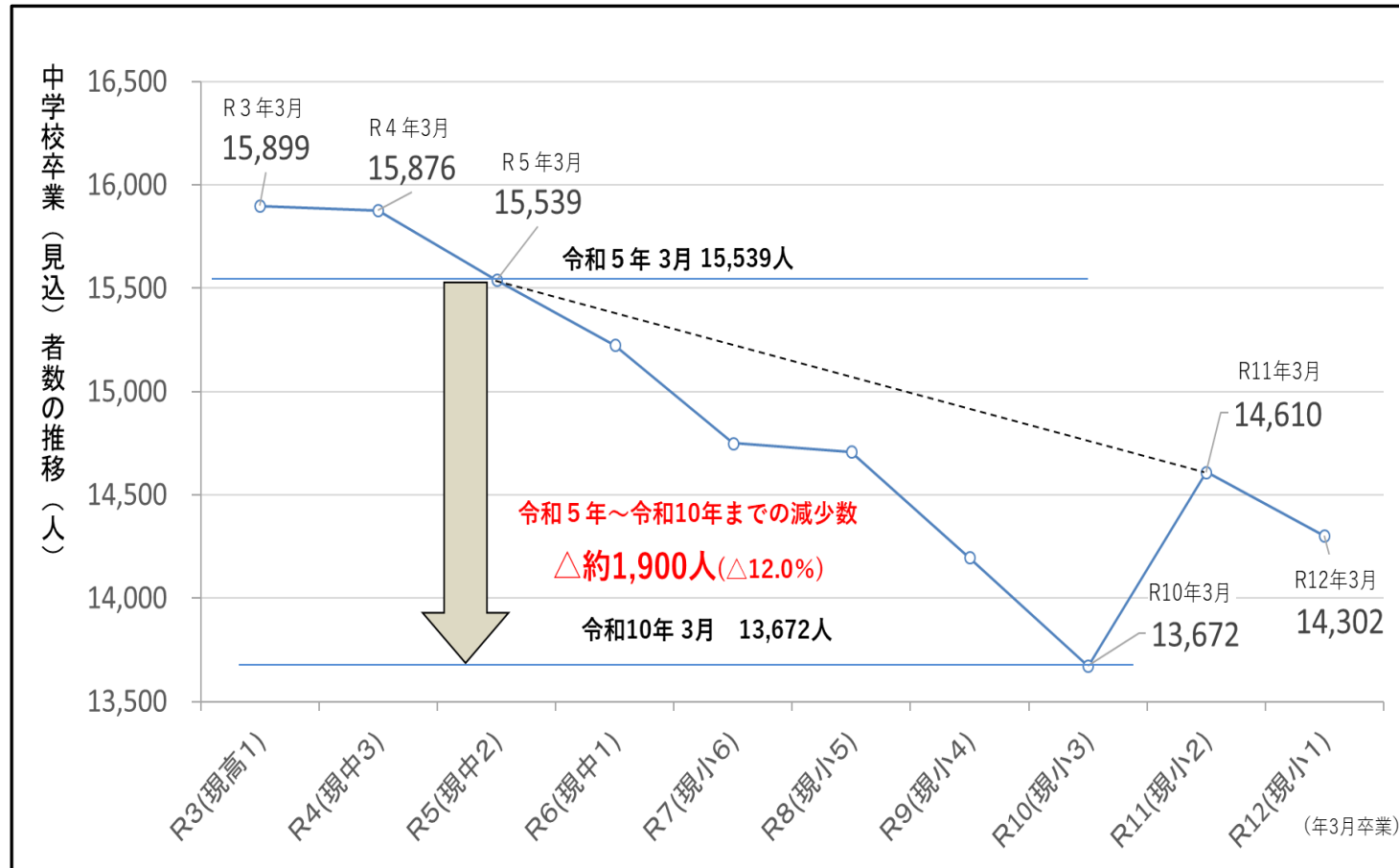
## 再編整備（統合）による期待される効果及び 前期統合校の成果

- 一定の集団規模を確保した望ましい学校規模の中で、生徒どうしが切磋琢磨しながら向上心を高め、人間性を育むことができる。
- 探究的な学びや他学科との連携など、新たな取り組みをとおしてより深い学びが実践できる。
  - (例) 地域を学びのフィールドとした地域探究型学習が進んでいる。
    - 喜多方高校の国際交流と地域貢献を融合させた地域探究型学習
- 望ましい学校規模とすることによって、教員数が確保され多様な選択科目や部活動からの選択が可能となる。
  - (例) 防災教育の導入や主権者教育の学校設定科目の新設がされている。
  - (例) コース制の導入や、選択科目の増加により生徒の選択肢が増えている。
- 設備の改修による学習環境の整備
  - (例) 少人数指導用の教室が確保され、活用されている。

# 後期実施計画の内容

## さらなる少子化の進行

- 令和12年3月までの中学校卒業見込者数の推移（全県）



出典：令和3年3月は福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。  
令和4年3月～令和12年3月までは同「学校基本統計（学校基本調査報告書）」における各学年の在籍者をもとに作成。

## 2

田村市と小野町の中学校卒業見込者数の推移と船引高校・小野高校の入学状況

# 入学状況

年度	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4
募集定員	120								80	
入学者数	98	94	110	118	89	87	81	68	40	39
充足率 (%)	81.7	78.3	91.7	98.3	74.2	72.5	67.5	56.7	50.0	48.8

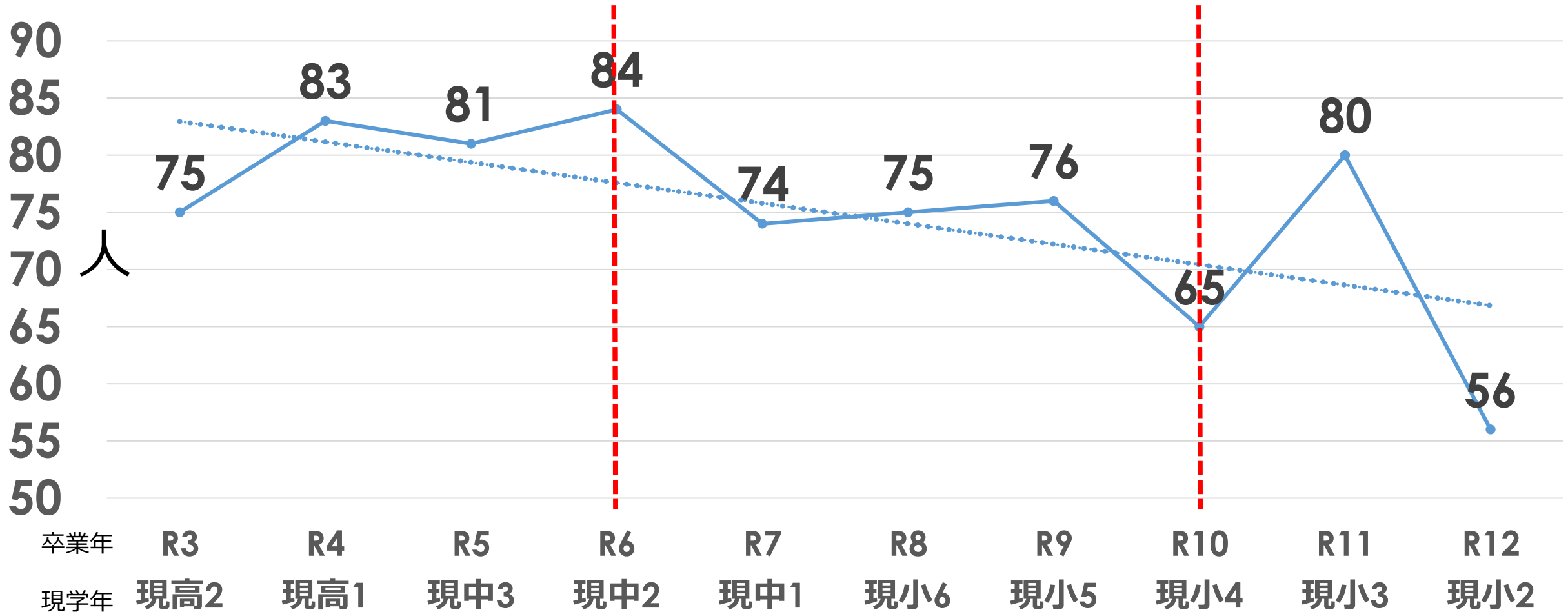
## 入学状況

年度	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4
募集定員	160		120							
入学者数	160	141	120	120	120	116	105	97	100	88
充足率 (%)	100.0	88.1	100.0	100.0	100.0	96.7	87.5	80.8	83.3	73.3



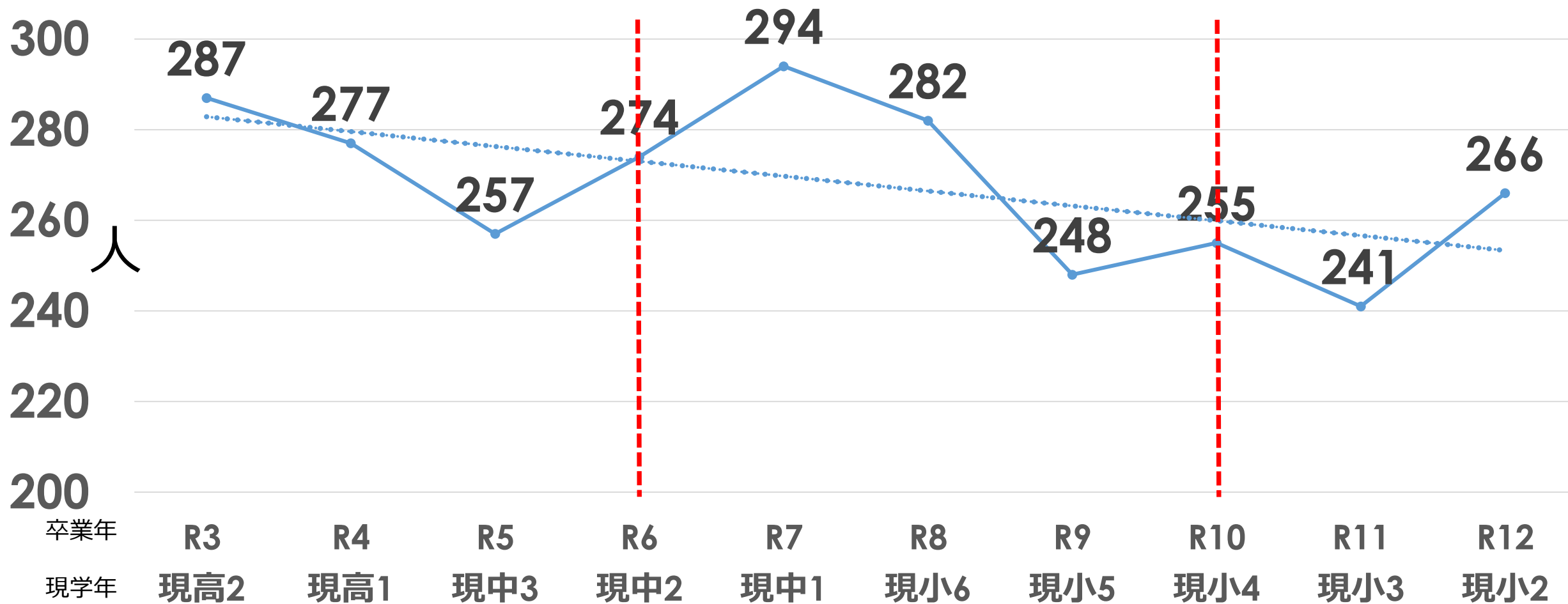
# 少子化の進行

## 小野町の中学校卒業生数と卒業見込者数の推移 (令和3年5月現在)



# 少子化の進行

## 田村市の中学校卒業生数と卒業見込者数の推移 (令和3年5月現在)



**3**

## 今後の再編整備

# 学校の沿革概要等

## 船引高校

### ○ 沿革 (創立74周年)

- ・ 昭和23年 7月 福島県立船引高等学校として開設
- ・ 平成 9年 4月 コース制導入(~H23) 1学年普通科320名
- ・ 平成21年 4月 デュアル実習スタート
- ・ 平成27年 4月 1学年普通科120名
- ・ 平成30年10月 創立70周年記念式典挙行

### ○ 設置学科 (令和4年度現在)

全日制 1学年3学級 計9学級  
・ 普通科 3学級

○ 面積 敷地総面積 84,417m<sup>2</sup>  
校舎 7,829m<sup>2</sup> 校舎以外 76,588m<sup>2</sup>

## 小野高校

### ○ 沿革 (創立80周年)

- ・ 昭和17年 4月 福島県田村養蚕学校として開校
- ・ 昭和30年 4月 福島県立小野高等学校と改称
- ・ 平成10年 4月 総合学科開設 1学年総合学科200名
- ・ 令和 3年 4月 1学年総合学科80名
- ・ 令和 4年 4月 創立80周年

### ○ 設置学科 (令和4年度現在)

全日制 1学年2学級 計6学級  
・ 総合学科 2学級  
4系列 文理総合系列 産業技術系列  
ビジネス系列 福祉教養系列

○ 面積 敷地総面積 115,551m<sup>2</sup>  
校舎等 23,729m<sup>2</sup> 運動場 12,769m<sup>2</sup>  
実習地等 79,053 m<sup>2</sup>

# 進路状況（過去3年間）

## 【船引高校】

進路先	大学	短大	専修・各種 専門学校等	就職	その他	合計
卒業年度						
R元	18	3	30	66	2	119
R2	21	5	35	49	1	111
R3	8	3	28	59	1	99

## 【小野高校】

進路先	大学	短大	専修・各種 専門学校等	就職	その他	合計
卒業年度						
R元	3	3	25	46		77
R2	5	4	22	46	3	80
R3	5	4	22	42	3	76

# 部活動

## 【船引高校】

- 運動部

サッカー ソフトテニス  
バドミントン 野球 卓球  
バスケットボール バレーボール  
剣道

- 文化部

ドローン科学探究 よさこい  
茶華道 美術

## 【小野高校】

- 運動部

野球 バレーボール テニス 剣道  
卓球 陸上競技 弓道  
バスケットボール バドミントン

- 文化部

美術 吹奏楽 放送

- その他

農業クラブ 家庭クラブ

# 統合校の概要

## 船 引 高 校

定員 1 2 0 名

○ 普通科(3学級)

## 小 野 高 校

定員 8 0 名

○ 総合学科(2学級)

令和8年4月開校予定

## 船引・小野統合高校（仮称）

定員：総合学科 1 6 0名(4学級)

場所：船引高校校舎

# 統合高校の方向性

## 船引・小野統合高等学校（仮）

総合学科の特色を生かし、生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた多様な科目群（系列）を設置することで生徒の学びを充実させ、地域を支える核となる人材を育成する学校として、キャリア指導推進校に位置づけます。

- 船引の取組を継承し、自治体や地域企業との連携等によりデュアルシステムを実践するなど、生徒の職業観を育むキャリア教育を充実させます。
- 小野の取組を継承し、地域資源を活用した商品開発に取り組むなど、社会に積極的に関わる教育活動を実践します。



# 検討する統合校の特色化

丁寧な学習指導  
及び進路指導

両地域の自治体や  
地域企業と連携した  
地域課題探究型学習

主体的・対話的で  
深い学びの実現

魅力ある科目群  
(系列) の設置

デュアルシステム  
の実践

## 今後の予定

### 会議等のスケジュール

第2回改革懇談会 夏以降

(以降必要に応じて開催)

#### 今後必要となる組織

改革懇談会でいただいた御意見を具現化するための組織

- 教育内容検討委員会（両校の教職員で構成される検討委員会）
- ワーキンググループ（各校の校内検討委員会）